

## 2011年9月25日 召天者記念礼拝

一年があっという間に過ぎてしまった。去年の召天者記念礼拝の記録を見ながら、今年の召天者記念礼拝は、淀川澄江さんが亡くなって丁度一年になる事に気がついた。私達の教会から、今年は3月に静子 Genewich さんが天に召され、7月にはオテロ美代子さんが、そして8月には盧さんが天に召されて行った。

去年の経験から、今年の召天者記念礼拝の説教は英語でされることになった。食事も、献花のお花も、今年は去年より多めに用意した。私が今年も司式を担当することになり、去年同様心の準備も整えながら当日を迎えた。

去年はその日になってパワーポイントが使えず、せっかく長時間掛けて準備した愛子さんに申週報は25部準備したが、全部無くなった程、英語部からの参加者も去年より多かった。嬉しかったのは、静子さんのご家族、そして盧さんの息子さん達が参加して下さったことだ。ご本人のメモリアルサービスが終わった後は、そのご家族が日本語部と疎遠になってしまうのが常なので、こうして、共にご家族の皆さんと一緒に天に召された教友を偲べる事は、感謝の一言に尽きる。礼拝は厳かに始められた。岸野先生は、この日の説教の中で、召天者を記念する礼拝とは、私達が召天された一人一人を偲び、この世で時を共に過ごせた事によって私達の人生が豊かになった事を感謝する時であると話された。確かに、神様のご計画によって私達はこの世である人と出会う。何とも素晴らしい神様のお計らいである。説教の後、聖歌隊が賛美を捧げ、一人一人が献花をし、故人を覚え祈った。

礼拝の後の食事会も、50名以上の方が参加された。食事をしながら、何人かの皆さんが、特別に自分が今日憶えたい故人の話をされた。日本語で話す方もいれば、英語で話す方もいた。言葉を越えた心の通じ合いがそこにあった。毎年、召天者記念礼拝には特別に参加される邱さんのご家族はお嬢さんが代表して亡きお父様のことを話した。静子さんの息子さんは、「母はこの教会が大好きでした。ここに来ると母が身近に感じられます。」と語った。つい2週間前にブラジル在住のお兄さんを天に送った伴子さんは、お兄さんの思い出話し、3月11日の東日本大震災の後、義兄を亡くされた愛子さんは、自分の模範だったクリスチャンの義兄さんの事、今年の4月にお母様を亡くされた佳世子さんは、お母様の亡くなる前に日本に駆けつける事ができた話し、英語部の Carl は去年亡くなった奥様の話し、さと子さんは澄江さんや Mark の事、民さんは藤田先生と中内さんの思い出話し、Nancy は最近天に召されたお父様の話し、英語部の聖歌隊メンバー、Jan と Bert は、一緒に歌った聖歌隊のメンバーだった Mark や Leila Mei、そして Vi と Jack の話等、それぞれが故人を覚えて、時には涙を流しながら語った。皆さんのお話を聞きながら、こうして一年に一度、私達が召天者を覚える特別な時を与えられた恵みに心から感謝を捧げたい。今年も又、思い出深い、良い召天者記念礼拝であった。

英美記録



召天者記念礼拝（2011年9月30日）

